

訪問作業療法における 調理活動の効果

～母親の役割の獲得を目指して～

医療法人社団 らぽーる新潟

ゆきよしクリニック

作業療法士 山田早織

はじめに

妊娠中にもやもや病による脳出血発症後、高次脳機能障害を遺し、女兒を出産した症例に対して、母親の役割を獲得し自信を高めることを目標に設定し、調理活動を行った。

その結果、自己有能感が高まり意欲の向上がみられ、注意障害と遂行機能障害の改善を認めた。

症例紹介

35才女性 もやもや病 脳出血後遺症

現病歴：X年 3月 妊娠22週 もやもや病による右視床出血を発症

4月 右側頭葉内側に脳出血を発症

左片麻痺と高次脳機能障害

(注意障害・記憶障害・遂行機能障害)を遺す

5月 妊娠32週 帝王切開にて女児を出産

X+1年 6月 自宅退院

X+2年 4月 当院より訪問リハ(PT・OT各週1・60分)開始

X+5年 6月 担当OT交代

利用サービス：自立訓練(機能訓練)・短期入所 (週1回水・木)

地域活動支援センター(週2)

家族構成：父・母・娘(5歳) 夫とは離婚

娘の育児と家事全般は父・母が行っていた

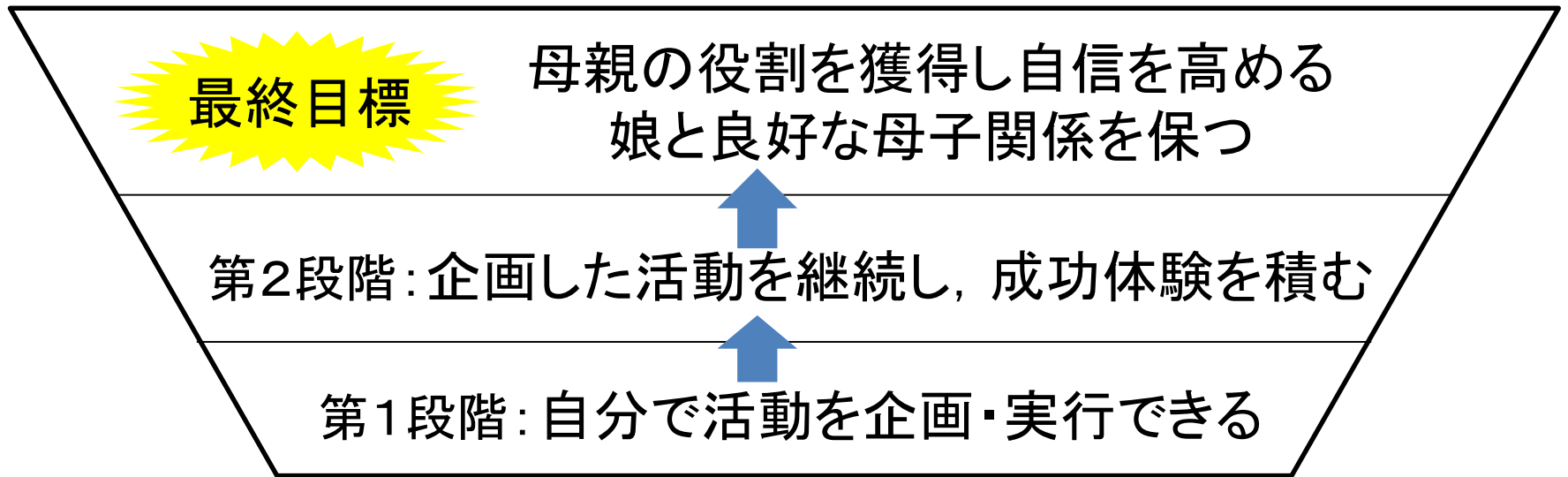
開始時評価 (X+5年6月)

身体面	<ul style="list-style-type: none">・BRS: 上肢VI・手指VI・下肢VI・四肢体幹の筋力低下, 体力低下あり
認知 心理面	<ul style="list-style-type: none">・注意: 持続, 転換, 分配の障害あり TMT-A323秒 仮名ひろいテスト(無意味) 正答12・誤答7・遂行機能: 作業中に手が止まることが多い・意欲: 「やりたいことは何もない」と意欲低下が顕著・抑うつ, 退行: 娘が騒ぐと苛立ち喧嘩をしてしまう →母子関係を上手く築くことができない

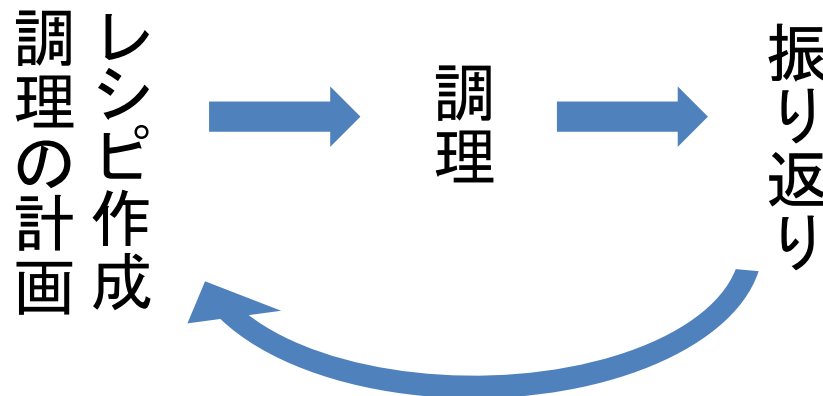
興味関心チェックリスト

「してみたい」作業 : 料理 買物 ボランティア 賃金を伴う仕事 旅行

介入の方針



OTプログラム 「娘と家族のための食事作り」



介入経過

導入期

定着期

1 (回)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
開始時評価	計画	調理① プリキュア おにぎり	注意課題	計画	調理② カレー	注意課題	計画	調理③ 焼きそば	休み (体調不良)		計画	体調不良で延期	調理④ オムライス	計画	調理⑤ 親子丼
					レシピ作成 開始										

意欲向上期

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
計画	調理⑥ キッシュ	計画	調理⑦ うさぎカレー	計画	調理⑧ ドリア	計画	調理⑨ フレンチトースト	最終評価	趣味活動(ネイルアート)			調理⑩ ポトフ	計画	調理⑪ グラタン

症例の逝去により訪問終了

各期における症例の変化

		導入期	定着期	意欲向上期
調理活動での行動	メニュー選び	希望なくOTRが提案	OTRが挙げた選択肢から自分で選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・娘が好きそうなメニューを自分で選ぶ ・娘の好物を母に聞く
	作業の進行	指示がないと手が止まる	手順がわからない場合にレシピを見ることができず、指示を要する	自らレシピを見て、次の手順に進むことができることがある
	注意集中力	私語が多く、話すときは手を止める		私語はあるが、手を動かしながら話す
言動		「お母さんは大変ですね...」と負担感があるが、「ママ美味しかったよ！って喜んでくれました」と笑顔あり	娘が喜ぶ様子を語ることが増える 「水曜はママがごはんを作ってくれる日だと思っているんです」	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人の期待を受けていることを喜ぶ ・自分がやりたい活動を希望する

調理完成品



プリキュアおにぎり



焼きそば



親子丼



フレンチトースト・サラダ



ポトフ



グラタン
(最後の料理)

最終評価(X+5年12月)

※X+6年 急性骨髄性白血病にて逝去したため、最終評価となった

身体面	・体力が向上し、60分間立位作業が行えるようになった
認知 心理面	・注意:TMT-A 250秒 ……73秒短縮 仮名ひろいテスト 正19・誤4 (初期:正答12・誤答7) ・遂行機能:調理場面で自らレシピを確認し、次の手順に進めるようになった ・意欲:メニューを自分で決める、趣味活動を希望して行うなど意欲が向上した ・抑うつ, 退行:娘との喧嘩はあるが、「私もあの子にとってはママなんですね」と母親の意識の高まりがみられた



就労継続支援B型の事業所利用を検討するようになった

考察

- ・作業に対する興味や価値など本人の認識を捉えることが重要であり、興味の高い作業、価値を感じている作業は生活満足感を高めるのに役立つ(小林ら 2002)

- ・家族や社会集団の中で役割を果たすことは、共同体の一員として認められ、受け入れられる所属感・自己有能感を満たす行為である。(山根 2000)

調理活動 = 興味・価値のある作業
母親の役割を象徴する作業

OTプログラム
に選択

調理の継続

娘の喜び・期待
家族や友人の称賛

強化因子

成功体験の積み重ね

自己有能感の充足

意欲の向上
抑うつ状態の軽快

注意機能
遂行機能の改善

おわりに

本症例を通して再認識したこと・・・

- ・価値のある作業は意欲を引き出し，行動を変化させる
- ・ひとの集団の中で役割をもつことの重要性



訪問リハビリテーションの場は「家庭」



対象者にとって価値があり，家族内の役割を考慮した
プログラムを選択していくことが重要

調理活動は訪問作業療法プログラムとして有効である